

臨時休業が延長され、また延長されて

令和2年4月30日

校長 北爪 徹

臨時休業が開始され、2ヶ月経ってしまいました。その間、2度の延長措置となり、5月末までの臨時休業が決まっています。誰もが経験したことのない未曾有の危機に対して、全国民が外出自粛をし日々生活していかなければなりません。出口の見えない未来に「自分の進路はどうなってしまうのだろう」と不安を持ってしまうのはしごく当然のことだと思います。しかしその思いは誰もが持っているものです。不安を消すことはできませんが、小さくすることはできると思います。まずは、目の前の「今やるべきこと」を進めてください。学校から渡された課題に取り組むことが、この先の未来につながっていくことだと考え、たゆまず努力を続けることを望んでいます。

また一方で、感染拡大防止で学校が休業になり、現在は人との接触を8割減にすることが重要と言われている状況が、皆さんに与える心理的影響は大きいものがあるだろうとも思っています。

本来、学校は他の人とのつながりの中で学習し生活していく場所ですが、今回の臨時休業においては、それが全くできません。学校には、先生がいて友達・仲間がいます。その中でともに学び、心通わせ、人として成長していくのです。学校は単に知識を得る場ではなく、人間として大きく成長できる場であるのです。だが今回は、残念ながら学校という場でつながることができなくなっています。そんなつながりを持たない状況が今後もたらずものとして、早稲田大学名誉教授の加藤^{たいぞう}諦三先生は、「新型コロナウイルスによる『心の崩壊』の深刻化だ」と警告しています。「小学生が食事をするのについたてを立てるような、人との接触をどう少なくするかを常に考えることの心理的ダメージが、10年後20年後に深刻な影響としてどう現れるか（本来であれば、小学生の年齢では、人と接することを学ぶことでコミュニケーション能力が育成される）」とも述べています。不安は始まりであって、それがやがて他の人への攻撃そして差別につながってってしまうのです。

だからこそ、今まで以上に他の人への思いやりが必要だと思います。外出自粛で家にこもってばかりだと考えも閉鎖的になってしまいます。親や兄弟と言い合いをするのではなく、まずは目の前の家族に対して何ができるか、自分の役割をもう一度考えてみてほしいのです。目の前の家族に対してだけでなく、想像力を働かせ、自分と同じ状況に置かれている仲間（狭い意味で言えば学校の仲間、広い意味で言えば全国の高校生）のことを考えてみましょう。自分一人が苦しいのではありません。程度の差はありますが、皆がもつ苦しきは共通しています。

人の少ない時に外に出てみるのはどうでしょうか。今の時期はハナミズキが赤や白に咲き誇っています。植物は、人間の世界が危機に瀕していても時期が来れば確実に花を咲かせます。その生命力に触れることで、自分の未来を思うきっかけにすることもできるでしょう。また、以前のメッセージでも話しましたが、読書することも勧めます。閉鎖的になりがちな思考を押しとどめ、新しい発見やものの見方に出会えるチャンスでもあります。

時間はあります。この臨時休業をマイナスと捉えず、何かに出会えるチャンスと捉え、プラスに考え毎日を前向きに生きていってほしいと心から願っています。